

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2021.3.22-28

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

25:14 天の御国は、しもべたちを呼んで、自分の財産を預け、旅に出て行く人のようです。

25:15 彼は、おのおのその能力に応じて、ひとりには五タラント、ひとりには二タラント、もうひとりには一タラントを渡し、それから旅に出かけた。

25:16 五タラント預かった者は、すぐに行って、それで商売をして、さらに五タラントもうけた。

25:17 同様に、二タラント預かった者も、さらに二タラントもうけた。

25:18 ところが、一タラント預かった者は、出て行くと、地を掘って、その主人の金を隠した。

25:19 さて、よほどたってから、しもべたちの主人が帰って来て、彼らと清算をした。

25:20 すると、五タラント預かった者が来て、もう五タラント差し出して言った。『ご主人さま。私に五タラント預けてくださいましたが、ご覧ください。私はさらに五タラントもうけました。』

25:21 その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』

25:22 二タラントの者も来て言った。『ご主人さま。私は二タラント預かりましたが、ご覧ください。さらに二タラントもうけました。』

25:23 その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物

に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』

25:24 ところが、一タラント預かっていた者も来て、言った。『ご主人さま。あなたは、蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めるひどい方だとわかっていました。』

25:25 私はこわくなり、出て行って、あなたの一タラントを地の中に隠しておきました。さあどうぞ、これがあなたの物です。』

25:26 ところが、主人は彼に答えて言った。『悪いなまけ者のしもべだ。私が蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めることを知っていたというのか。』

25:27 だったら、おまえはその私の金を、銀行に預けておくべきだった。そうすれば私は帰って来たときに、利息がついて返してもらえたのだ。』

25:28 だから、そのタラントを彼から取り上げて、それを十タラント持っている者にやりなさい。』

25:29 だれでも持っている者は、与えられて豊かになり、持たない者は、持っているものまでも取り上げられるのです。』

25:30 役に立たぬしもべは、外の暗やみに追い出しなさい。そこで泣いて歯ざしりするのです。』

タラントは当時では億単位のお金です。私たちはそれほどの賜物、すなわち才能や可能性を神様からいただいているということです。もっと積極的な自己像を持ちましょう。

五タラントもらった者は恵まれているようですが、それだけ大きな仕事をするのですから苦勞も大きいでしょう。神様は二タラントも者も全く同

じくほめてくださいますから、賜物が多い者が恵まれているとは限りません。主のために用いることが何よりも大切なのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



25:31 人の子が、その栄光を帯びて、すべての御使いたちを伴って来るとき、人の子はその栄光の位に着きます。

25:32 そして、すべての国々の民が、その御前に集められます。彼は、羊飼いが羊と山羊とを分けるように、彼らをより分け、

25:33 羊を自分の右に、山羊を左に置きます。

25:34 そうして、王は、その右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世の初めから、あなたがたのために備えられた御国を継ぎなさい。』

25:35 あなたがたは、わたしが空腹であったとき、わたしに食べる物を与え、わたしが渴いていたとき、わたしに飲ませ、わたしが旅人であったとき、わたしに宿を貸し、

25:36 わたしが裸のとき、わたしに着る物を与え、わたしが病気をしたとき、わたしを見舞い、わたしが牢にいたとき、わたしをたずねてくれたからです。』

25:37 すると、その正しい人たちは、答えて言います。『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹なのを見て、食べる物を差し上げ、渴いておられるのを見て、飲ませてあげましたか。』

25:38 いつ、あなたが旅をしておられるときに、泊まらせてあげ、裸なのを見て、着る物を差し上げましたか。』

25:39 また、いつ、私たちは、あなたのご病気やあなたが牢におられるのを見て、おたずねしましたか。』

25:40 すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも

最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』

25:41 それから、王はまた、その左にいる者たちに言います。『のろわれた者ども。わたしから離れて、悪魔とその使いたちのために用意された永遠の火にはいれ。』

25:42 おまえたちは、わたしが空腹であったとき、食べる物をくれず、渴いていたときにも飲ませず、

25:43 わたしが旅人であったときにも泊まらせず、裸であったときにも着る物をくれず、病気のときや牢にいたときにもたずねてくれなかった。』

25:44 そのとき、彼らも答えて言います。

『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹であり、渴き、旅をし、裸であり、病気をし、牢におられるのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』

25:45 すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、おまえたちに告げます。おまえたちが、この最も小さい者たちのひとりにならなかったのは、わたしにならなかったのです。』

25:46 こうして、この人たちは永遠の刑罰にはいり、正しい人たちは永遠のいのちにはいるのです。』

「世の初めから、あなたがたのために備えられた御国」とありますから、救いは主の権威によって予定されているようにも読めます。しかし一方「小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。」ともありますから、人間の側による救いの決定というようにも読むことができます。そしてここでは信仰と行いとが一体になっています。

まさに予定論と予知論、また信仰と行いとが一

体となって表現されているイエス様のたとえ話ですが、大切なことは神学ではなく、人を愛することはイエス様を愛することと同じ思いから発するということです。信仰があると言いながら、苦しんでいる人を助けられないなどということは有り得ないのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



26:1 イエスは、これらの話をすべて終える
と、弟子たちに言われた。

26:2 「あなたがたの知っているとおりに、二日
たつと逾越の祭りになります。人の子は十字
架につけられるために引き渡されます。」

26:3 そのころ、祭司長、民の長老たちは、カ
ヤパという大祭司の家の庭に集まり、

26:4 イエスをだまして捕え、殺そうと相談し
た。

26:5 しかし、彼らは、「祭りの間はいけない。
民衆の騒ぎが起るといけないから。」と話
していた。

26:6 さて、イエスがベタニヤで、らい病人
シモンの家におられると、

26:7 ひとりの女がたいへん高価な香油のは
いった石膏のつぼを持ってみもとに来て、食
卓に着いておられたイエスの頭に香油を注い
だ。

26:8 弟子たちはこれを見て、憤慨して言った。
「何のために、こんなむだなことをするのか。」

26:9 この香油なら、高く売って、貧乏な人た
ちに施しができたのに。」

26:10 するとイエスはこれを知って、彼らに
言われた。「なぜ、この女を困らせるのです。
わたしに対してりっぱなことをしてくれたの
です。」

26:11 貧しい人たちは、いつもあなたがたと
いっしょにいます。しかし、わたしは、いつ
もあなたがたといっしょにいるわけではありません。

26:12 この女が、この香油をわたしのからだ
に注いだのは、わたしの埋葬の用意をしてく
れたのです。

26:13 まことに、あなたがたに告げます。世
界中のどこでも、この福音が宣べ伝えら
れる所なら、この人のした事も語られて、
この人の記念となるでしょう。」

26:14 そのとき、十二弟子のひとりで、イ
スカリオテ・ユダという者が、祭司長たち
のところへ行って、

26:15 こう言った。「彼をあなたがたに売る
としたら、いったいいくらくれますか。」

すると、彼らは銀貨三十枚を彼に支払った。

26:16 そのときから、彼はイエスを引き渡す
機会をねらっていた。

大祭司や祭司長また長老たちを敵にするとい
うことは、この世では絶望的な敗北を意味してい
ました。しかし神様にとっては、この世は限定され
た小さな世界にしか過ぎません。

その後には香油のエピソードがあります。この世
の価値観だけで言うと、数百万円の価値があるだ
ろうと思われる香油をイエス様に注ぐとは、「む
だなこと」になるかもしれません。しかしそれは、
この世しか見ていない価値観です。「貧乏な人た
ち」を思いやる気持ちは、神様から与えられてい
ます。その神である主イエスを愛することは、人
への思いやりに先行するものであり、逆に神をな
いがしろにするなら、それは必ず人をないがしろ
にすることにつながります。

ましてやイエス様は全ての人を愛して救うため
に、恐ろしい十字架への道を進んでいたのです。
イエス様を愛することは人をも愛することです。

ユダはそれが分らずに、人間中心の価値観でイ
エス様に失望していたようです。神の永遠の価値
観を人のものと同列にしてしまわないように、ま
ず神を第一としましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の
約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願
いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなた
の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



25日 木曜

マタイ

26:17 さて、種なしパンの祝いの第一日に、弟子たちがイエスのところに来て言った。「過越の食事をなさるのに、私たちはどこで用意をしましょうか。」

26:18 イエスは言われた。「都には行って、これこれの人のところに行って、『先生が「わたしの時が近づいた。わたしの弟子たちといっしょに、あなたのところで過越を守ろう。」と言っておられる。』と言いなさい。」

26:19 そこで、弟子たちはイエスに言いつけられたとおりにして、過越の食事の用意をした。

26:20 さて、夕方になって、イエスは十二弟子といっしょに食卓に着かれた。

26:21 みなが食事をしているとき、イエスは言われた。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたのうちひとりが、わたしを裏切ります。」

26:22 すると、弟子たちは非常に悲しんで、「主よ。まさか私のことではないでしょう。」とかわるがわるイエスに言った。

26:23 イエスは答えて言われた。「わたしといっしょに鉢に手を浸した者が、わたしを裏切るのです。」

26:24 確かに、人の子は、自分について書いてあるとおりに、去って行きます。しかし、人の子を裏切るような人間はのろわれます。そういう人は生まれなかったほうがよかったです。」

26:25 すると、イエスを裏切ろうとしていたユダが答えて言った。「先生。まさか私のことではないでしょう。」イエスは彼に、「い



や、そうだ。」と言われた。

26:26 また、彼らが食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福して後、これを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」

26:27 また杯を取り、感謝をささげて後、こう言って彼らにお与えになった。「みな、この杯から飲みなさい。」

26:28 これは、わたしの契約の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるものです。

26:29 ただ、言うておきます。わたしの父の御国で、あなたがたと新しく飲むその日までは、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。」

26:30 そして、賛美の歌を歌ってから、みなオリーブ山へ出かけて行った。

過越しの食事とは、イスラエルがエジプトの奴隷から解放されたことを祝うお祭りの行事です。エジプトから脱出するとき、エジプト全体が神様に打たれたのですが、イスラエルの家だけは裁きを過越されるようにと、子羊の血を入りに塗ったことを記念しています。これはまさにイエス様が、全人類の裁きを過越していただくために、血を流すことのひな型でした。イエス様はそれを知って、この過ぎ越しの食事を特別なものとして用意なさったのです。

そこでイエス様はご自分の死がどういう意味でどういう目的を持ったものなのかを、弟子たちに語りました。またユダの裏切りを知りつつ彼を行かせたことを記録して、イエス様はご自身の決心によって十字架に架かれたことが明かになっています。

それらが全て人類の救いのためであり、また現

に救われている私たち一人一人のためにであることを覚えて、感謝しつつイエス様の愛を心に味わいましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



26:31 そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたはみな、今夜、わたしのゆえにつまずきます。『わたしが羊飼いを打つ。すると、羊の群れは散り散りになる。』と書いてあるからです。」

26:32 しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先に、ガリラヤへ行きま

す。」
26:33 すると、ペテロがイエスに答えて言った。「たとい全部の者があなたのゆえにつまずいても、私は決してつまずきません。」

26:34 イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。今夜、鶏が鳴く前に、あなたは三度、わたしを知らないと言いま

す。」
26:35 ペテロは言った。「たとい、ごいっしょに死ななければならぬとしても、私は、あなたを知らないなどは決して申しませ

ん。」弟子たちはみなそう言った。
26:36 それからイエスは弟子たちといっしょにゲツセマネという所に来て、彼らに言

われた。「わたしがあそこに行って祈っている間、ここにすわっていなさい。」
26:37 それから、ペテロとゼベダイの子ふたりとをいっしょに連れて行かれたが、イエスは悲しみもだえ始められた。

26:38 そのとき、イエスは彼らに言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。ここを離れないで、わたしといっしょに目をさましていなさい。」

26:39 それから、イエスは少し進んで行って、ひれ伏して祈って言われた。「わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去ら

せてください。しかし、わたしの願うようにはなく、あなたのみこころのように、なさってください。」

26:40 それから、イエスは弟子たちのところに戻って来て、彼らの眠っているのを見つけ、ペテロに言われた。「あなたがたは、そんなに、一時間でも、わたしといっしょに目をさましていることができなかつたのか。」

26:41 誘惑に陥らないように、目をさまして、祈っていなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。」

26:42 イエスは二度目に離れて行き、祈って言われた。「わが父よ。どうしても飲まずには済まされぬ杯でしたら、どうぞみこころのとおりをなさってください。」

26:43 イエスが戻って来て、ご覧になると、彼らはまたも眠っていた。目をあけていることができなかつたのである。

26:44 イエスは、またも彼らを置いて行かれ、もう一度同じことをくり返して三度目の祈りをされた。

26:45 それから、イエスは弟子たちのところに来て言われた。「まだ眠って休んでいるのですか。見なさい。時が来ました。人の子は罪人たちの手に渡されるのです。」

26:46 立ちなさい。さあ、行くのです。見なさい。わたしを裏切る者が近づきました。」

イエス様が「あなたがたは…つまずきます。」と警告なさいましたが、弟子たちは「決してつまずきません。」と、自分の信仰を過信していました。さらにイエス様が「死ぬほど」の祈りをしてい

本当に私たち人間は霊も肉も弱いので、祈って神様に助けていただくほかありません。決して高ぶらないように、また安心しきらないようにしましょう。

主イエスの思いを教えていただくには、自分の力では不可能で、聖霊様により頼む以外ありません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



26:47 イエスがまだ話しておられるうちに、見よ、十二弟子のひとりであるユダがやって来た。剣や棒を手にした大ぜいの群衆もいっしょであった。群衆はみな、祭司長、民の長老たちから差し向けられたものであった。

26:48 イエスを裏切る者は、彼らと合図を決めて、「私が口づけをするのが、その人だ。その人をつかまえるのだ。」と言っておいた。

26:49 それで、彼はすぐにイエスに近づき、「先生。お元気で。」と言って、口づけした。

26:50 イエスは彼に、「友よ。何のために来たのですか。」と言われた。そのとき、群衆が来て、イエスに手をかけて捕えた。

26:51 すると、イエスといっしょにいた者のひとりが、手を伸ばして剣を抜き、大祭司のしもべに撃ってかかり、その耳を切り落とした。

26:52 そのとき、イエスは彼に言われた。「剣をもとに納めなさい。剣を取る者はみな剣で滅びます。」

26:53 それとも、わたしが父にお願いして、十二軍団よりも多くの御使いを、今わたしの配下に置いていただくことができないとも思うのですか。

26:54 だが、そのようなことをすれば、こうならなければならないと書いてある聖書が、どうして実現されましょう。」

26:55 そのとき、イエスは群衆に言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってわたしをつかまえに来たのですか。わたしは毎日、宮ですわって教えていたのに、あなたがたは、わたしを捕えなかったのです。」

26:56 しかし、すべてこうなったのは、預言

者たちの書が実現するためです。」そのとき、弟子たちはみな、イエスを見捨てて、逃げてしまった。

イエス様には、かつては大勢の群衆が従っていましたが、今や群衆は敵となりました。国の指導者たちは殺意に燃え、さらには愛した弟子の一人であるユダにまで裏切られました。

しかしイエス様は強い決意によって、戦うことも防衛することもなさいませんでした。ご自身が十字架に架かれるという大いなる使命があったからです。

私たちはこのような主イエスの愛と強さの御思いを忘れずにいたいものです。またこの世の悪や矛盾に直面するとき、決してこの世の戦いの論理ではなく、イエス様の愛の力で勝利できることを信じましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



26:57 イエスをつかまえた人たちは、イエスを大祭司カヤパのところへ連れて行った。そこには、律法学者、長老たちが集まっていた。

26:58 しかし、ペテロも遠くからイエスのあとをつけながら、大祭司の中庭まではいって行き、成り行きを見ようと役人たちといっしょにすわった。

26:59 さて、祭司長たちと全議会は、イエスを死刑にするために、イエスを訴える偽証を求めていた。

26:60 偽証者がたくさん出て来たが、証拠はつかめなかった。しかし、最後にふたりの者が進み出て、

26:61 言った。「この人は、『わたしは神の神殿をこわして、それを三日のうちに建て直せる。』と言いました。」

26:62 そこで、大祭司は立ち上がってイエスに言った。「何も答えないのですか。この人たちが、あなたに不利な証言をしています。これはどうなのですか。」

26:63 しかし、イエスは黙っておられた。それで、大祭司はイエスに言った。「私は、生ける神によって、あなたに命じます。あなたは神の子キリストなのか、どうか。その答えを言いなさい。」

26:64 イエスは彼に言われた。「あなたの言うとおりに。なお、あなたがたに言うおきますが、今からのち、人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見るようになります。」

26:65 すると、大祭司は、自分の衣を引き裂いて言った。「神への冒涜だ。これでもまだ、



証人が必要でしょうか。あなたがたは、今、神をけがすことばを聞いたのです。

26:66 どう考えますか。」彼らは答えて、「彼は死刑に当たる。」と言った。

26:67 そうして、彼らはイエスの顔につばきをかけ、こぶしでなぐりつけ、また、他の者たちは、イエスを平手で打って、

26:68 こう言った。「当ててみる。キリスト。あなたを打ったのはだれか。」

大祭司たちはイエス様を罪に定めることが、初めからの目的であったので、イエス様のことばを勝手に解釈しています。「あなたの言うとおりに」ということで冒涜と決め付けていますが、これは彼らがイエス様を「神のキリスト」と言っていることとなります。また「人の子」を勝手にイエス様であると解釈しています。

これにより結局彼らは、イエス様が神であるという事実を有罪としたのです。すなわち彼らは神を神として認めなかったという罪を犯したわけですから。

すべての義と真理、そして愛の根源であられる、創造主である神に逆らっては、どんな正義も成り立ちません。その神様を有罪として、殺すなどという前代未聞の暴挙は、神が神であることを認めない態度と一体であることが分ります。

私たちは神様を神と認め、信頼しましょう。神様を主として、どんなことでも従いましょう。このときにイエス様のそばにいたとしたら、それができるでしょうか。そして今はどうでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

